須弥山石組み
指東庵のすぐ下に、須弥山をかたどった石組みがある。須弥山は5つの頂上を持つ仏教の山であり、古代インドの神話ではスメール山などと呼ばれている。仏教の宇宙観では、須弥山は宇宙の中心にあり、その高さと広さは数十キロメートルに及び、その4面はそれぞれ金、水晶、ルビー、そしてラピスラズリ（碧玉）でできているとされる。
西芳寺の須弥山は、亀のかたちをしているとも言われている。亀は仏教的には重要なシンボルであり、長寿祈願の言葉「鶴は千年、亀は万年」と関連がある。亀の甲羅に相当する部分の高くなったところは塔（パゴダまたはストゥーパ）だとされており、ここにも仏教の世界が表現されている。